

会 告

平成 16 年度「研究グループ」の助成金について.....	80
「土地改良施設耐震設計の手引き」の発行について.....	80
土地改良事業計画設計基準「計画・農地地すべり防止対策」の発行について	85
農業土木学会誌の愛称についてご意見を!	85
「農業土木学会学術基金」の募金について(再).....	85
「農業土木学会誌」読者の公表とご協力のお礼.....	85
「農業土木学会論文集」読者の公表とご協力のお礼.....	86
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について	87
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め	88
農業土木学会誌への投稿お待ちしております!小特集以外の投稿も歓迎します。	88
あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 17 年表紙写真募集	89
既刊の土地改良事業計画設計基準等の正誤表について	89
農業土木学会論文集第 230 号内容紹介	90
学会記事	92

農業土木学会(本部)行事の平成 16 年度計画

農業土木学会(本部)16年度行事について、下表のように計画しています。奮ってご参加下さるようお待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中()を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 16 年 9 月 7~10 日	平成 16 年度大会 運営委員会	平成 16 年度大会講演会 		札幌市	72 巻 1,3 号

農業土木学会関連行事予定

平成 16 年 8 月 26,27 日	農村計画研究部会	第 26 回現地研修集会 	みんなで描く山里ものがたり	高山市	72 巻 2 号
------------------------	----------	--	---------------	-----	-------------

平成16年度「研究グループ」の助成金について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件以内です。

本年度の申請締切は、平成16年6月25日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. **申請**：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. **認定**：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. **配布**：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
4. **助成対象**：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
 - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
 - (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に36歳未満であること。
5. **活動報告**：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告^{注1)}を研究委員会に提出すること。
 - 注1) 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌報文原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。
 - 注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

「土地改良施設耐震設計の手引き」の発行について

このたび、「土地改良施設耐震設計の手引き」が発行となりました。内容は、以下のとおりとなっております。

ご希望の方は、下記要領でお申込みくださいますよう、お願いいたします。

内 容

- 第1章 総 論
- 2章 基本方針
- 3章 調 査
- 4章 設計条件
- 5章 設計手法
- 6章 施設ごとの設計手順
- 7章 液状化の検討
- 8章 耐震診断
- 資料編 耐震設計例

1. 鉄筋コンクリート橋脚の計算

2. 暗渠(ボックスカルバート)の計算
3. パイプラインの計算

記

1. 判 型 A4判 約700ページ
2. 販 価 7,700円(内税,送料学会負担)
3. 申込方法 郵便振替(00160 8 47993),現金書留でお申込み下さい。
4. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4
(社)農業土木学会事務局 担当:関根
☎ 03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

土地改良事業計画設計基準・計画「農地地すべり防止対策」の発行について

このたび、標記土地改良事業計画設計基準が改定され、5月に発行されることとなりました。判型、ページ数、販価は下記のとおりです。ご希望の方はお申込み下さい。なお、改定の趣旨は、本誌 pp 67～68 を参照下さい。

記

み下さい。

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1. 判 型 A4判 約410ページ | 4. 申込先 〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4 |
| 2. 定 価 5,000円(内税,送料学会負担) | (社)農業土木学会事務局 担当:関根 |
| 3. 申込方法 郵便振替(00160 8 47993)または現金書留でお申込 | ☎:03-3436-3418 FAX:03-3435-8494 |

農業土木学会誌の愛称についてご意見を!

農業土木学会誌編集委員会

昨今の農業土木を巡る環境の変化に伴い、現在の「農業土木学会誌」という名称が、その内容を的確に反映しているか、また気軽に手にとって読んでもらえるのだろうか、読んでもらえる誌名とは?等々について、学会誌編集委員会では、平成14年からの2年の間、委員会のたびごとに時間をかけて議論をまいりました。その結果、「農業土木学会誌」という名称はそのまま残すこととして、愛称をつけることといたしました。

そして、平成15年12月委員会において、会員からの意見を勘案しつつさらに議論を深め、下記の5案を学会誌編集委員会案として示し、改めて会員の皆様のご意見をいただくことといたしま

した。

ご意見は、たとえば、「もう少し表現をやわらかくしたら」とか、「こんなのはどうか」とか、どのようなご意見でも結構です。

平成16年4月末を締切として、学会あてのE-mail、学会ホームページ上の掲示板、落書き帳、学会誌のFAX通信、あるいは郵便等でお寄せ下さい。たくさんのご意見をお待ちしております。

E-mail:suido@jsidre.or.jp 学会HP:http://www.jsidre.or.jp

委員会案：農業土木、水土の知、農と環境、水と土と農、地域と環境

「農業土木学会学術基金」の募金について(再)

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成15年度までに38件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円以上(何口でも可)

法人会員一口 50,000円以上(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名 (社)農業土木学会学術基金

郵便振替:00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

「農業土木学会誌」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会誌編集委員会

農業土木学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行することができました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝

申し上げます。

農業土木学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成11年度から氏名を公表(五十音順・敬称略)させていただくことといたしました。

ここに、2003年4月から2004年3月までの期間に、閲読いただきました方の氏名を公表させていただきます。

ほんとうにありがとうございました。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

合 崎 英 男	長 利 洋	清 水 夏 樹	長 坂 貞 郎	水 谷 正 一
青 山 咸 康	小 奈 和 哉	下 舞 寿 郎	八 丁 信 正	三 宅 康 成
赤 江 剛 夫	加 藤 亮	進 藤 惣 治	端 憲 二	森 充 広
池 田 一 行	加 納 敬	鈴 木 健 一	広 川 晶	森 也 寸 志
石 井 敦	北 村 義 信	鈴 木 正	藤 田 覚	安 田 政 彦
石 丸 正 一 郎	木 山 正 一	高 石 洋 行	堀 野 治 彦	山 下 等
井 田 充 則	黒 田 久 雄	谷 口 建	牧 山 正 男	吉 田 謙 太 郎
岩 本 彰	駒 村 正 治	丹 治 肇	松 井 宏 之	吉 野 邦 彦
大 槻 恭 一	齋 藤 豊	中 桐 貴 生	松 尾 貴 充	渡 辺 博 之
大 野 研	篠 原 源	中 村 貴 彦	松 田 晴 夫	渡 部 邦 夫

「農業土木学会論文集」閲読者の氏名公表とご協力のお礼

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成16年4月には、通算230号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がりつつあります。このような環境の中で、閲読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく230号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業土木学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平

成11年度から閲読者を公表（五十音順・敬称略）させていただくことといたしました。

ここに、2003年4月から2004年3月までの期間に投稿原稿を閲読いただきました閲読者の氏名を公表させていただきます。

ほんとうにありがとうございました。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

合 崎 英 男	糸 永 浩 司	加 藤 幸	小 池 聡	塩 沢 昌
粟 生 田 忠 雄	稲 垣 仁 根	紙 井 泰 典	小 出 水 規 行	塩 野 隆 弘
赤 江 剛 夫	井 上 一 哉	軽 部 重 太 郎	向 後 雄 二	凌 祥 之
明 田 定 満	井 上 京	河 地 利 彦	河 野 英 一	嶋 栄 吉
東 信 行	井 上 久 義	河 端 俊 典	甲 本 達 也	島 田 清
足 立 一 日 出	井 上 光 弘	川 本 治	古 賀 潔	島 田 沢 彦
足 立 泰 久	猪 迫 耕 二	川 本 健	小 林 晃	島 田 正 志
有 田 博 之	上 田 眞 吾	北 辻 政 文	小 林 慎 太 郎	清 水 英 良
安 中 武 幸	内 田 一 徳	木 ノ 瀬 紘 一	小 林 範 之	志 村 も と 子
飯 田 俊 彰	内 田 晴 夫	木 全 卓	駒 村 正 治	白 谷 栄 作
石 井 敦	大 久 保 博	木 村 和 弘	近 藤 武	新 庄 彬
石 井 将 幸	大 槻 恭 一	清 澤 秀 樹	近 藤 正	神 宮 字 寛
石 川 雅 也	緒 方 英 彦	桐 博 英	近 藤 文 義	杉 本 英 夫
石 黒 覚	荻 野 芳 彦	宜 保 清 一	後 藤 章	杉 山 博 信
石 黒 宗 秀	奥 山 武 彦	九 鬼 康 彰	斉 藤 憲 治	千 賀 裕 太 郎
石 田 憲 治	長 利 洋	日 下 達 朗	酒 井 一 人	千 家 正 照
泉 完	尾 崎 叡 司	工 藤 清 光	酒 井 俊 典	高 木 強 治
板 垣 博	鬼 塚 宏 太 郎	久 保 成 隆	崎 絵 美	高 瀬 恵 次
井 手 任	角 道 弘 文	倉 島 栄 一	佐 藤 泰 一 郎	田 熊 勝 利
伊 藤 健 吾	加 治 佐 隆 光	黒 田 久 雄	佐 藤 政 良	竹 内 真 一

武田 育郎	仲野 良紀	端 憲 二	堀野 治彦	村島 和男
田中 忠次	中村 和正	服部 九二雄	前川 勝朗	毛利 栄征
田中 勉	中村 公人	原口 暢朗	牧山 正男	森 洋
田中 恒夫	中村 貴彦	伴 道一	増川 晋	森井 俊広
田中 雅史	中村 良太	坂西 研二	増本 隆夫	守田 秀則
田中丸 治哉	中矢 哲郎	秀島 好昭	松井 宏之	森田 勝
谷 茂	永井 明博	平松 和昭	松尾 芳雄	守山 弘
谷川 寅彦	長坂 貞郎	平松 研	松川 進	山岡 和純
樽屋 啓之	長澤 徹明	深田 三夫	松本 伸介	山口 紀子
近森 秀高	成岡 市	福田 哲郎	松本 康夫	山路 永司
月岡 存	西村 伸一	福与 徳文	三浦 健志	柚山 義人
土谷 富士夫	西村 真一	藤井 克己	三沢 真一	吉迫 宏
取出 伸夫	西村 拓	藤咲 雅明	水谷 正一	吉武 美孝
中 達雄	西山 壮一	藤原 正幸	三橋 伸夫	吉永 育生
中石 克也	野中 資博	藤卷 晴行	三原 真智人	渡辺 晋生
中嶋 勇	登尾 浩助	星川 和俊	宮本 輝仁	渡辺 匡彦
中野 拓治	服部 俊宏	星野 敏	三輪 弑	渡辺 紹裕
中野 芳輔	長谷川 周一	堀 俊和	村上 章	渡辺 文雄

**国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について**

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol.2 No.1が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は243名(3月現在)であり、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め年間数百万の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2004年3月にはVol 2 No.1が発刊されます。

我が国においても学術誌の評価に、SCi(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(13名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制:

- Editor in Chief: Dr. Yohei Sato (Japan)
- Editors および Editing Board **には世界各国から斯界の権威が就任しています。**
- Managing Editors: Dr. Yoshisuke NAKANO (Japan), Dr. Nobumasa HATCHO (Japan), Dr. Yoshito YUYAMA (Japan), Dr. Ke Sheng CHENG (Taiwan), Dr. Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社: Springer Verlag社(ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿先: 農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します。

農業土木学会誌編集委員会

72巻・73巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

学会誌第72巻9号～73巻5号までの小特集のテーマ(予定)

小 特 集 の テ ー マ	要旨締切(必着) (A4判用紙,1,500字以内)	原稿締切
11号 農村と都市の交流(農村観光)(仮)	平成16年4月30日	平成16年6月15日
12号 国立大学法人化(仮)	平成16年5月31日	平成16年7月15日
73巻 1号 水土文化遺産(仮)		
2号 ブロック編集担当号の予定です。		
3号 貧困削減・平和構築と海外農業農村開発,食糧自給率(仮)		
4号 流域の水環境管理(減水深を含む)(仮)		
5号 技術者資格(仮)		

72巻11号テーマ:「農村と都市の交流(農村観光)(仮)」

農村と都市の交流は重要なものだと言われていますが、今ひとつその目的や方法が明らかではありません。

たとえば、農村と都市の交流の大きな柱としては、農村観光があります。世界旅行産業会議(WTTC)の調査では、観光の産業規模は、97年には3兆4,610億ドル(直接,間接を含む)で、全世界GDPの11.6%を占め、2010年には世界のGDPの12.5%に達し、「21世紀最

大の産業」となると予測されています。日本でも、平成14年2月、第154回国会における小泉内閣総理大臣の施政方針演説で、海外からの旅行者の増大とこれを通じた地域の活性化を図るとの方針を示すなど、観光振興は内閣の主要政策課題となっており、第2次小泉改造内閣においては、歴代内閣として初めて観光立国担当大臣が設置され、石原国土交通大臣が同担当大臣に任命されました。

では、観光振興のための方法は何か？観光立国関係閣僚会議で決定された「観光立国行動計画」では、「日本の魅力・地域の魅力の確立」が主要な方法論の一つとして取り上げられています。国際観光客数が世界1位のフランスでも、観光客の宿泊割合が多いのは、パリのあるイル・ド・フランス地域ではなく、南仏のプロバンス・アルプ・コートダジュール地域やローヌ・アルプ地域です。

これに対応するかのようになり、国土交通省から平成15年7月「美しい国づくり大綱」が、農林水産省から平成15年9月「水と緑の『美の里』プラン21」が提出され、平成16年2月の国会では「景観法（仮称）」の制定、平成16年度中の施行が目指されています。

そこで今回は、農村と都市の交流（農村観光）をテーマにとり、直接的な観光だけにとどまらず、農村・地域の魅力の維持、向上、創造、発見、理解、再評価などの方法、事例、研究、また農村・地域の良好な景観の維持、向上、創造、魅力あるむらづくりの取組み支援などの方法、事例、研究の投稿をお待ちしています。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成17年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成17年も皆さまからの写真で表紙を飾ることを企画しました。つきましては、下記の要領で学会誌第73巻（平成17年1～12月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4枚の写真を組み合わせて、ストーリー性を持たせた写真にしてください。

記

1. 趣 旨 近代に至るまで、わが国の農業土木技術者たちはその時々の技術を結集し、稲作、ひいては国土を支えてきました。こうして築かれた「造形」の多くは周辺の風景と一体化しつつ、今もなお、その機能を十分に発揮しています。

学会誌編集委員会では、農業土木の先駆けとなったそうした農業水利遺産を見直すために、「先人たちの造形が織りなす風景」をテーマとし、学会誌の表紙を飾る写真を公募します。皆さんの身近なところやふるさとで、先人たちの想いに心寄せながら、心に残る「一枚」を見つけ、ぜひお送りください。

なお、本来の機能を発揮している灌漑期だけでなく、静かにたたずむ非灌漑期の写真も、お待ちしております。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントでサイ

ズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. 枚 数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締 切 平成16年9月30日（必着）

5. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で12点を選びます。

6. 結果発表 学会誌73巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成17年度大会会場でパネル展示します。

7. 賞 品 入選作品1点につき3万円（表紙掲載料含む）。応募者には記念品をお贈りします。

8. 応募資格 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。

9. その他 応募写真の裏面にタイトル、住所、氏名、年齢、職業、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ）を記入して下さい。また、対象物の名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明（いつ、だれが、どうして等）もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、（社）農業土木学会に属します。

10. 宛 先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4（社）農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

既刊の土地改良事業計画設計基準等の正誤表について

土地改良事業計画設計基準等につきましては、技術の進歩にあわせた改定を行ってきていますが、印刷の段階での誤植のほか、表現等適切とは言えない部分について、多方面からご指摘をいただいております。事務局としては、このような訂正が生じたことに対しお詫び申し上げますとともに、貴重なご指摘をいただいた皆様に感謝申し上げます。また、今後、このようなことがないように、編集・出版に当たり、査読・確認に十分留意してまいりたいと考えております。

今回、こうしたご指摘を踏まえ、正誤表を巻末添付のとおり整理いたしましたので、土地改良事業計画設計基準等の活用に当たっては十分ご留意いただくようお願い申し上げます。

今後、修正等があった場合には、定期的に学会誌上に報告させていただきたいと考えております。

（担当事務局：農林水産省農村振興局資源課・設計課、農業土木学会事務局）